



TITLE:

野尻抱影・星の和名研究書簡について

AUTHOR(S):

坂井, 義人

CITATION:

坂井, 義人. 野尻抱影・星の和名研究書簡について. 第3回天文台アーカイブプロジェクト報告会集録 2012: 19-23

ISSUE DATE:

2012-12-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/164306>

RIGHT:

野尻抱影・星の和名研究書簡について

坂井義人

(1) はじめに

星の語り部、野尻抱影氏は、冥王星の命名者、日本の星の名前(星の和名)の研究者としてつとに著名である。天文・星を志向した者ならば、その名を知らぬ人はないであろう。

山本一清研究が進められている現在、その遺品類は全て京都大学に寄付移管されたが、それらの中にはかなりの山本博士あての野尻書簡が存在するという。(富田良雄氏談)今回はこれを機会に、亡父・坂井義雄(岐阜金華山天文台、アナナイ中央天文台ほか)の手元に保管され続けた昭和 30 年前後の「野尻抱影書簡」を紹介したい。

本稿では、岐阜県の西部、谷汲地区(現・揖斐川町)などで収集され、野尻氏にそれらの報告をされた星の和名収集家・香田寿男氏、または香田まゆみ氏あての野尻氏直筆書簡の概略紹介を中心に、当時の和名収集の片鱗と交流を紹介する。

(2) 野尻抱影氏について(ネットサイト・天文古玩その他)

- ・野尻正英(のじり・まさふさ) 1885-1977(明治 19 年-昭和 52 年)
- ・抱影と号す(19 歳 1904 年)
- ・1906 年(明治 39 年) 早稲田大学卒、ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)の文学授業を受け私淑。後に早稲田大学にて教鞭。
ラフカディオ・ハーン自身、火星観測者として名を馳せたパーシバル・ローウェルの著作によって来日を望み、またその弟子たる野尻抱影氏は、ローウェルの設立した「ローウェル天文台」発見による新惑星(現在は準惑星)の Pluto に冥王星と命名した。因果は巡るは、まさしく正しく好事例・・・!
- ・生涯、星の和名研究に従事。1930 年の Pluto の発見を受け、同 10 月「科学画報」誌に、「幽王星」「冥王星」を提案掲載。京都大学にて冥王星を採用(山本一清博士採用?)。その他、天文著書多数。
- ・渋谷の東急プラネタリウムその他各地で、天文講演多数。
- ・「大仏次郎氏は、野尻先生のご実弟なのですね?」(ご機嫌よし、その反対の質問は極めて不機嫌・・・有名な逸話)

(3) 岐阜県西濃地方の星の和名研究

星の和名は当然のことながら、日本全国に広く分布する。星の民俗学とも言うべき文化遺産である。農山村、漁村など、その生活に根ざす独自の星の名前は、驚くほどの多様であり、大変に興味深い。

そうした関心から、野尻氏は、地道なる星の和名収集に長年努力され、その多くは同氏の著作物に結実をされている。しかし乍ら、それらは多くの天文アマチュア諸氏による支援の下に展開をされ、協力者の氏名なども、その著作に積極的に紹介された。

ところで、亡父・坂井義雄(誉志男)は、昭和 26 年当事、師の山本一清博士の指導の下、岐阜市金華山頂に公的補助と理解も得つつ、岐阜天文台を展開した。現在で言えば、市民レベルの公開施設の範疇ではあろうが、民による研究機関といったよう社会実験的施設でもあった。太陽面観測、また師の推進された太陽系天体、特に火星・木星・土星などの表面経年変化観測など、先駆的活動を担当した。

そのような中で、岐阜市を中心とした美濃地方の学校教職員を含む天文同好的活動も並行された。天文岐阜誌の中に、星の和名収集の経過も掲載され、香田寿男、香田まゆ

みという人物が特に活躍をされた。お二人の香田氏と亡父との関係を筆者は良くは理解していないが、亡父へのお二人の葉書の文面からは、精神面での交流と声援が読みとれる。ご両所とも文字の繊細さから、心の行き届いた人物で、土地の古老よりの星の伝承収集には、好適者であったに相違ない。ただし、現時点では、香田寿男氏(または寿夫との表記)と香田まゆみ氏の関係は全く不明である。同じ中学校に在籍した形跡もあり、また別々の学校で教鞭を取っておられる時期もあったようで、同じ地域に暮らされた苗字親戚なのか、穿った解釈ではご夫婦教員であったのか、判断材料に恵まれない。別途に紹介する野尻氏の葉書は勤務校気付けとなっており、個人の住所地ではないためである。

下記に掲載の茶色い半紙一枚は野尻氏の自筆書簡である。あて先人名は不明ながら香田寿男氏または香田まゆみ氏であろう。それは、野尻氏執筆の「星の方言集・日本の星」(昭和 48 年中央公論社)の文中に、香田寿男氏のことが紹介されており、この自筆半紙はその裏づけとして、お二人のいずれかに宛てたものである事が類推される。書簡には出版時は報告者の紹介を約した箇所があり、補完的な傍証でもある。この書簡の記載日時は不明であり、その点は残念であるが、これ以外にも、野尻氏自筆のお二人の香田氏あての葉書が合計 31 通あり、それからすると昭和 30 年前後のものである。

葉書については、未だ全ての内容の判読は怠ったままである。なお、それらの葉書は、亡父が襖製品のカタログ帳に貼り付けてしまい、あて先名の判読が困難な状態となってしまう。現時点ではどうにも仕方が無い。

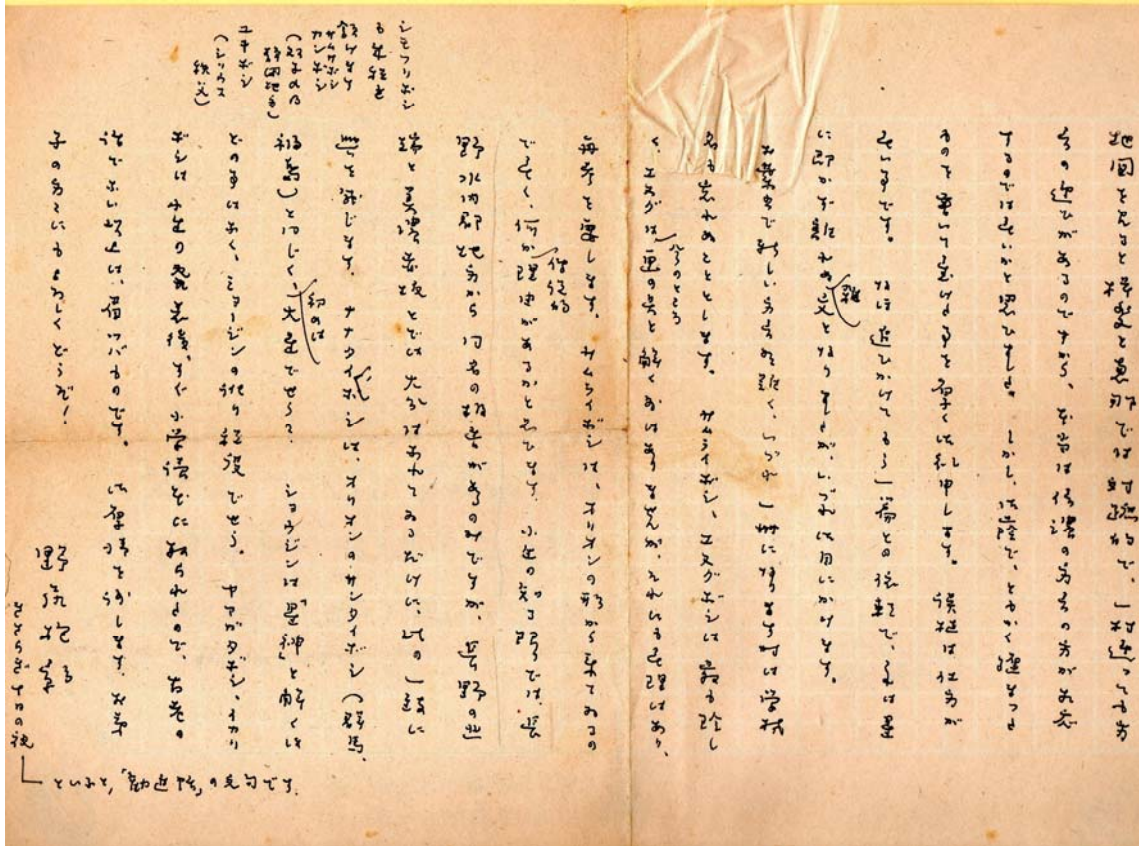
さて、野尻氏と二人の香田氏がどのような関係を築いて、こうした星の和名収集に参加していったのかは、その経緯は不明である。ただし当時「肉眼星の会」という同好的組織があったそうで、その会の有志の手によって、多くの和名情報がもたらされ続けたとも言われる。多分、今回紹介したお二方も、そのような繋がりからかと思われるが、想像を脱し得ないとは言え、早稲田大学での師弟関係であったという可能性もあるだろう。香田まゆみ氏あての葉書文面からは、日々の暮らしや、梅雨時の陰鬱な毎日を、「蝶々が飛んできた」とか、「仕事も出来ずビールと映画で暮らしています」などの微笑ましい風景が語られており、氏の飄々とした性格のようなものが垣間見られる。もし、これが師弟の交わりとするならば、晩年の黒澤明監督の映画「まーあだだよ」の内田百閒の師弟関係にも比肩するエピソードとなるのではあるまいか。星の世界の人間模様を描いた映画というのは、皆無と言ってよく、将来の脚本家に期待する所である。この拙稿に掲載した香田まゆみ氏への葉書に記述されており、ぜひ読解に挑戦してみて頂きたい。

なお、野尻自筆葉書 31 通が、何故亡父の手元に保管され続けるに至ったか、これも判然としない。勿論のこと、亡父・坂井義雄も星の和名には関心を抱いていたらしく、葉書類の貼り付けてある冊子には、色々な書き込みも見られる。会誌の天文岐阜への紹介のため、このお二人から借用したままになったものか、または岐阜天文台資料として譲り受けたものか、そのいずれかではあろう。

1938 年、米国のラインムート発見の小惑星 1938WA・3008 Nojiri は、太陽系の彼方から、亡父が氏の書簡を永年保存し続けたことを、微笑んで許してくださっていることだろう。小惑星 8735 Yoshiosakai は、野尻小惑星との会合を楽しみにしている事と信じたい。以上が、野尻書簡と香田両氏、そして亡父との関係である。

(4) 野尻書簡の事例紹介

① 野尻氏自筆による西濃地方の和名評価



「記述内容」

地図を見ると揖斐と恵那では対蹠的で、一村違っても方言の違いがあるのですから、本当は信濃の方言が対応するのではないかと思います。しかし、お陰でともかく纏まったものを書いて戴けた事を厚く御礼申します。誤植は仕方が無いことです。

なほ追いかけてもう一篇との依頼で、これは星に即かず離れぬ雑文となりましたが、いずれお目にかけます。

お葉書で新しい方言有難く、いづれ一冊になります時は、学校名も忘れぬこととします。

サムライボシ、エヌグボシは最も珍しく、エヌグは今のところ画の具と解く事はありませんが、それにも無理はあり、再考を要します。サムライボシは、オリオンの形から来てゐるのでなく、何か使役的理由があると思ひます。

小生の知る限りでは、長野水内郡地方から同名の報告があるのみですが、長野の西端と美濃赤坂とでは、大分はなれていただけに、この一致に興を感じます。

ナナタイ・ボシはオリオンのサントイボシ(群馬、福島)と同じく、始めは大星でせう？ ショウジン「星神」と解くほどの事はなく、ミョージンの訛り程度でせう。ヤマガタボシ、イカリボシは小生の発表後、すぐ小学読本に知られたので、古老の話ではない以上は眉ツバものです。ご厚情を謝します。お弟子の方々にもよろしくどうぞ！

野尻抱影

きさらぎ十日の夜・・・という、「勸進帳」の文句です。

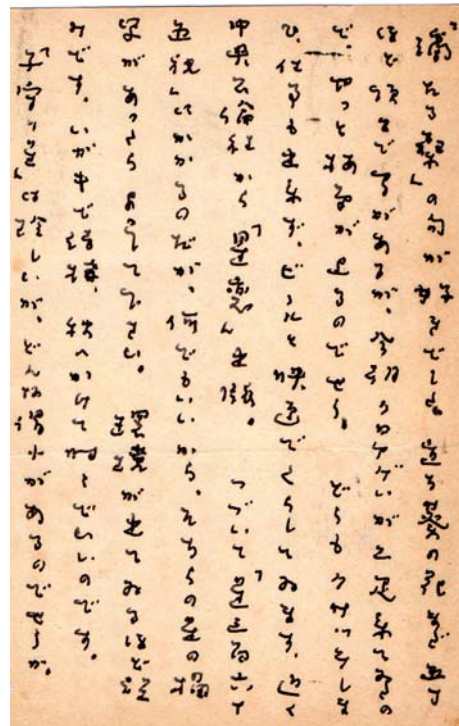
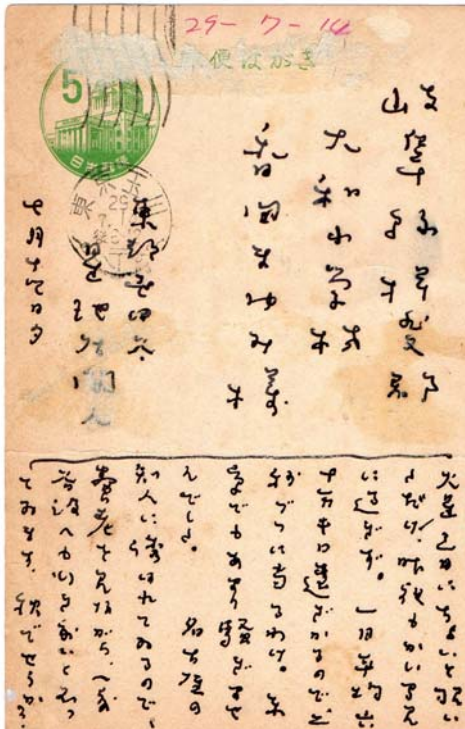
@ 原稿上段の書き込み

シモフリボシ 年程を領けます

サムサボシ (双子 アルファ ベーター 静岡地方)

ユキボシ (シリウス 秩父)

② 香田まゆみ氏あての野尻氏自筆葉書



香田まゆみ氏への勤務校あての一例。昭和 29 年 7 月 14 日付、岐阜県揖斐郡大和村・大和小学校(昭和 30 年町村合併により、現・揖斐川町)となっている。差出名は、野尻氏ペンネームの様相である。

(5) その他

- ・ 山本一清博士との交流・・・京大山本遺品類に多数の野尻書簡。
- ・ 亡父・坂井義雄遺品に野尻先生よりの香田寿男氏あて葉書 31 通(岐阜県西美濃地方の星の和名研究内容、解読未了) 香田寿男氏よりの亡父・坂井義雄あて葉書 30 通(ただし時候の挨拶その他の内容)・・・今集会時に披露持参。
- ・ 野尻抱影先生についての紹介などの記事その他は、インターネット上にては、ほとんど詳細記述は無い。大正デモクラシー時代以降と文学分野での「星の和名その他」については、「大正ロマン」からそれに続く「昭和ロマン」への推移の観点よりの言及は多分無く、専門的文学史評価は文学専門家の参加の下、今後の課題とすべきではなかろうか。
- ・ 今回紹介の資料は、極めて貴重なるものとして、山本博士あての野尻書簡と同様に、やはり、京都大学博物館その他にて永久保管を勘案すべきであろう。
- ・ 山本博士あての野尻書簡はもとより、今回の自筆書簡・葉書については、特に「解読」を実施し、全文の開陳の必要性を要する。(独特の個性的文字は、解読と解釈に注意)



天文古玩より転載(昭和 40 年 左・山口誓子 右・野尻抱影)

2012/07/10 記